

令和8年4月24日発行

◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆

農業担い手メールマガジン（第450号）

◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆

<トピックス>

1. 公募期間中です！働きやすい環境づくりのための「雇用体制強化事業」
2. 担い手向けに機械導入等を支援！！地域農業構造転換支援事業の要望調査を実施中！！
3. (畜産の暑熱対策) 暑さに備えましょう！！
4. 「令和7年地球温暖化影響調査レポート(速報)」を公表しました
5. (みどり戦略技術紹介) 茶園用病害虫クリーナーによるチャ炭疽病対策及び異物除去作業の省力化
6. 「令和8年度病害虫発生予報第1号」(令和8年4月15日(水)付け)を発表しました
7. 水稲など13品目に対応した土壌診断AIを開発
8. AIを活用した「ばれいしょ異常株検出支援システム」の試作機を開発
9. いもち病菌胞子の効率的形成法と長期保存技術を確立
10. 「スマート生産方式SOP(スマート農業技術導入・運用手順書)作成研究」公募の採択
11. 下水汚泥資源をリサイクルした肥料等から供給される養分量が見える化し、化学肥料の適正施用をサポートする「汚泥肥料、菌体りん酸肥料の肥効見える化アプリ」(畑地版)の公開

◆◆◆現場の皆さんへ◆◆◆

【1. 公募期間中です！働きやすい環境づくりのための「雇用体制強化事業」】

人材への投資を進める農業経営者がどんどん増えています！農業現場で「働き方改革」に取り組む皆さんを応援する「雇用体制強化事業」は、現在公募期間中です。詳細は、公益社団法人日本農業法人協会のホームページ（以下リンク先）をご参照ください。

【募集期間】

令和8年3月30日(月)から令和8年7月31日(金)まで。(応募者多数の場合、公募を締め切ることがあります。)

【支援額】

1 協議会※あたり2,000万円(定額)

または就労条件改善に取り組む農業経営体数×100万円のいずれか低い方が上限

※農業経営体3経営体以上と関係機関（地方自治体、JA等）1者以上で構成。

（条件を満たせば、農業経営体1経営体以上でも実施可能な場合あり）。

【支援内容の例】

就労条件改善に係る研修会の実施・パンフレットの作成

就業規則の策定・見直しに向けた専門家によるコンサルティング・作業マニュアルの策定

作業工程や経営データの見える化・共有のためのツール導入

地域協議会が行う求人掲載や募集イベントの開催等の取組

◇ 事業の詳細、募集はこちらから（(公社)日本農業法人協会 Web）

→ <https://hojin.or.jp/agri/r6koyoutaisei/>

◇ お問い合わせ先

農林水産省 就農・女性課（担当：菅原、石川、福士）

TEL：03-6744-2160（直通）

【2. 担い手向けに機械導入等を支援！！地域農業構造転換支援事業の要望調査を実施中！！】

地域農業構造転換支援事業は、地域の中核となって農地を引受ける担い手の経営改善に必要な農業用機械・施設の導入を支援する内容となっており、地域や担い手の状況に応じて、より幅広い担い手の方が活用できる事業となっております！

■ 主な事業要件

- ・ 補助率：3/10 以内 補助上限額：個人 1,500 万円以内、法人 3,000 万円以内
- ・ 対象者：地域計画に位置付けられた担い手
- ・ 成果目標（以下のいずれか1つを認定）
 1. 経営面積の3割又は4ha以上の拡大
 2. 付加価値額1割以上の拡大
 3. 労働生産性3%以上の向上

現在、要望調査（農林水産省 5/8㍻）を実施しておりますので、本事業に御関心がある方、御活用を検討される方は、お住まいの市町村に事業の内容、申請期限等をご確認ください！！

◇ 事業の詳細についてはこちら（農林水産省 Web）

→ https://www.maff.go.jp/j/keiei/sien/R7_chiiki_nougyou/251223.html

◇ お問い合わせ先
農林水産省経営局経営政策課担い手・法人総合対策室
TEL：03-3502-6444（直通）

【3.（畜産の暑熱対策）暑さに備えましょう！！】

今年も暑い季節がやってきます！！
暑さによる生産性の低下を防ぐためには、事前の「備え」が重要です。
農林水産省では、暑熱対策に必要な資機材の導入等を支援しています。
支援も活用しながら、暑さが本格化する前から、早め早めの準備を進めましょう。

◇ 支援の詳細などはこちら（農林水産省 web）
→ https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/lin/l_tiku_manage/index.html#shonetu

◇ お問い合わせ先
農林水産省畜産局企画課（担当：企画班）
TEL：03-3502-5981（直通）

【4.「令和7年地球温暖化影響調査レポート（速報）」を公表しました】

今回は速報版として、気候変動の影響について報告が多い水稲、果樹、野菜などの農畜産物において効果のあった適応策をまとめました。

特に水稲は高温による影響への適応策として、主食用米に占める高温耐性品種の作付割合が増加しています。

気象庁の長期予報によると、気温は全国的に高い見込みと予想されています。農作業における熱中症対策についても掲載しておりますのでご覧ください。

皆様におかれましては、今後の農業経営の継続のために本レポートに示されている影響、適応策等を参考として頂ければと思います。

◇ 「令和7年地球温暖化影響調査レポート（速報）」の公表について（令和8年3月27日付け農林水産省プレスリリース）はこちらから（農林水産省 Web）
→ <https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/kankyo/260327.html>

◇ 「令和7年地球温暖化影響調査レポート（速報）」（PDF:5,503KB）はこちらから（農林

水産省 Web)

→ <https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/attach/pdf/index-170.pdf>

◇ 農林水産省の地球温暖化対策はこちらから（農林水産省 Web)

→ <https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農産局農業環境対策課（担当：地球温暖化対策推進班）

TEL：03-3502-5956（直通）

【5.（みどり戦略技術紹介）茶園用病害虫クリーナーによるチャ炭疽病対策及び異物除去作業の省力化】

「みどり戦略技術紹介」では、毎月、環境負荷の低減に取り組む農業者の皆様役に役立つ技術をご紹介します。

今回は、茶園用病害虫クリーナーによる炭疽病対策及び異物除去作業の省力化についてです。

近年、緑茶の輸出が拡大しています。茶の輸出においては、相手国の基準を踏まえた栽培管理が求められており、有機栽培を含め、化学農薬の使用低減につながる技術が重要となっています。そこで、送風により樹冠内の病葉や異物を除去する「茶園用病害虫クリーナー」が開発されました。

本技術により、炭疽病の発病を低減でき、農薬使用量の低減に貢献します。また異物除去作業の大幅な省力化が可能です。なお、炭疽病対策は適期処理が重要であり、害虫対策については他の防除法との併用が必要です。

本技術の詳しい情報については、みどり技術カタログをご覧ください。

◇ 「みどりの食料システム戦略」技術カタログ(分割版：茶) (PDF：2,650KB) p. 3

茶園用病害虫クリーナーによるチャ炭疽病対策及び異物除去作業の省力化（農林水産省 Web)

→

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/07_midori_catalog5_tea.pdf#page=3

◇ 「みどりの食料システム戦略」技術カタログ（農林水産省 Web)

→ <https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/catalog.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省大臣官房政策課技術政策室

TEL : 03-3502-3162 (直通)

【6. 「令和8年度病害虫発生予報第1号」(令和8年4月15日(水)付け)を公表しました】

農林水産省は、今後の農作物の病害虫発生動向や防除について「令和8年度病害虫発生予報第1号」を公表しました。

気象庁の向こう1か月の予報(4月9日付け)では、気温は全国で高いと予想されています。降水量は東日本太平洋側及び西日本で平年並か多い、北日本、東日本日本海側でほぼ平年並み、沖縄・奄美で少ないと予想されています。

麦では、赤かび病の発生が、東海、四国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。

野菜・花きでは、いちごのハダニ類の発生が、北陸、東海及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。

果樹カメムシ類の発生が、近畿及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。

この他、かんきつのハダニ類、きゅうりのべと病等、地域によっては多くなると予想されている病害虫があるので注意してください。

◇ 「令和8年度病害虫発生予報第1号」の発表について(令和8年4月15日(水)付け農林水産省プレスリリース)はこちらから(農林水産省Web)

※ 都道府県の発表する病害虫発生予察情報と併せてご利用ください。

→ <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/260415.html>

◇ 都道府県の病害虫発生予察情報などはこちらから(農林水産省Web)

→ <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省消費・安全局植物防疫課(担当:国内防除第2班)

TEL : 03-3502-3382 (直通)

【7. 水稻など13品目に対応した土壌診断AIを開発】

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下「農研機構」）は、一般財団法人日本土壌協会と連携し、水稻をはじめ13品目に対応した高精度な土壌診断AIを開発しました。専門家による診断に基づく適切な土壌管理は、収量向上と環境保全に不可欠ですが、専門家不足により多くの地域・ほ場での確な診断が行えない状況となっています。開発した土壌診断AIによって専門家並みの精度でより迅速な診断が可能となります。適切な土壌管理が推進されることで、収量向上と環境保全を両立する持続可能な農業の普及が期待されます。

◇ プレスリリースはこちら（農研機構 Web）

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/rcar/175004.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら（農研機構 Web）

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課（担当：戦略的実装班）

TEL：03-3502-7407（直通）

【8. AIを活用した「ばれいしょ異常株検出支援システム」の試作機を開発】

農研機構、シブヤ精機株式会社、十勝農業協同組合連合会は、市販のほ場管理車両を土台に、AIを活用したばれいしょ異常株検出支援システムの試作機を開発しました。

種いもの安定供給上、重要な栽培管理工程である異常株の抜取り作業において、病害感染などにより生じた異常株をAIが検出し、生産者に知らせます。

本システムの普及により種いもの生産の効率化が図られ、我が国の基幹作物であるばれいしょの種いもの生産面積の回復や担い手不足解消への貢献が期待できます。

◇ プレスリリースはこちら（農研機構 Web）

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/rcait/175344.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら（農研機構 Web）

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課（担当：戦略的実装班）

TEL：03-3502-7407（直通）

【9. いもち病菌胞子の効率的形成法と長期保存技術を確立】

農研機構は、牧草や穀類に深刻な被害を及ぼすいもち病菌について、対策研究を進めるために不可欠な胞子を安定的かつ効率的に形成する技術を開発しました。

またこの胞子が半年間保存できることを示しました。本技術は、近年の温暖化に伴い被害が拡大している飼料作物ライグラス類のいもち病対策を加速し、耐病性品種の育成を効率化する基盤となります。

◇ プレスリリースはこちら（農研機構 Web）

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/173892.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら（農研機構 Web）

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課（担当：戦略的実装班）

TEL：03-3502-7407（直通）

【10. 「スマート生産方式 SOP(スマート農業技術導入・運用手順書)作成研究」公募の採択】

農研機構は、スマート農業技術の導入を推進するための事業「スマート生産方式 SOP(スマート農業技術導入・運用手順書)作成研究」の事業実施主体となり、研究を実施します。

本事業の公募期間中(令和7年12月26日(金曜日)～令和8年2月13日(金曜日))に応募があった10課題について、外部の有識者等による厳正な審査を踏まえ、農林水産省が設置した運営管理委員会において採択課題が決定されました。

◇ プレスリリースはこちら（農研機構 Web）

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/naro/175083.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら（農研機構 Web）

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課（担当：戦略的実装班）

TEL：03-3502-7407（直通）

【11. 下水汚泥資源をリサイクルした肥料等から供給される養分量が見える化し、化学肥料の適正施用をサポートする「汚泥肥料、菌体りん酸肥料の肥効見える化アプリ」(畑地版)の公開】

農研機構、国立研究開発法人土木研究所及び京都大学などから構成される「肥効評価に基づく下水汚泥肥料活用促進コンソーシアム」は、畑地に施用した汚泥肥料等からの養分供給量を試算(見える化)するウェブアプリを作成し、公開しました。

畑の位置、汚泥肥料の種類(コンポスト、乾燥汚泥など)、施用量や時期を選択するだけで、施用した汚泥肥料等からの平均的な養分供給量が表示され、それを参考に、化学肥料の施用量を減らすことができます。

汚泥肥料等の農地施用を促進することで、肥料原料の輸入依存の軽減と、国内での肥料資源の循環利用に貢献します。

◇ プレスリリースはこちら (農研機構 Web)

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/niaes/174717.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら (農研機構 Web)

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課 (担当：戦略的実装班)

TEL：03-3502-7407 (直通)

◆◆◆編集後記◆◆◆

4月より農業担い手メールマガジンの担当になりました、大木と申します。今号が初めての編集・発信となります。不慣れな点もございますが、購読いただいている皆様に少しでもお役に立てるような記事をお届けできるよう、精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします！

さて、今年4月20日が二十四節気の一つ「穀雨」でした。穀雨は「百穀を潤す春の雨が降るころ」を意味するとされています。昔から穀雨を目安に田んぼに水を張り田植えの準備や、畑では麦の種まき、夏野菜の植え付けを行うなど、本格的に農作業を始める時期とされてきました。穀雨の恵みを受けて作物が健やかに育ち、皆様が無事に豊かな収穫を迎えられることを願っています。

■ 経営局公式 Facebook ページ「農水省・農業経営者 net」

→ <https://www.facebook.com/nogyokeiei>

■ ご意見・ご質問はこちら

→ <https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/keiei/keiei/180817.html>

■ リンク URL の一部に PDF 形式のものがあります

メールマガジンに記載した URL で、一部 PDF 形式のものがあります。PDF ファイルをご覧いただくためには、農林水産省ホームページ「3 PDF ファイルについて」をご覧になり、「GetAdobeReader」のアイコンで AdobeReader をダウンロードしてください。

→ <https://www.maff.go.jp/j/use/link.html>



- 電子出版：農業担い手メールマガジン
- 発行日：毎月1回発行
- 発行元：農林水産省経営局経営政策課 担当：大木

☆ このメルマガの配信申込み、バックナンバーはこちらから

→ https://www.maff.go.jp/j/kobetu_ninaite/n_hyousyouty/hyousyouty_merumaga.html

☆ このメルマガの配信変更、配信解除、パスワード再発行等はこちらから

→ <https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>

